

穂波小3年生 公共施設の役割などを学習

穂波小学校（蒔苗元紹校長）の3年生18人が、総合的な学習の時間に市役所と防災備蓄倉庫を見学し、仕事の内容や公共施設の役割などを学びました。

この日、児童たちは市役所庁舎内にある市議会議場や各部署を回り、職員の仕事や税金のしくみなどの説明を聞きながら熱心にメモを取っていました。

また、防災備蓄倉庫では、倉庫の大きさや非常食などの備蓄数の多さに驚きの声を上げていました。

大澤莉々愛さんは「大人になったら市民の健康を守る仕事をやってみたい」、野呂侑生君は「倉庫にたくさんの食料があって、これなら地震などの災害が来たときに安心して避難できそう」とそれぞれ話しました。



6/21
市防災備蓄
倉庫

ダンボールベッドの作り方を学ぶ児童たち

交通死亡事故ゼロ600日達成

6/24
県警察本部



表彰を受けた山本会長と今副市長

市は6月21日をもって交通死亡事故皆無600日を達成し、この日、市交通安全対策協議会（会長・倉光市長）と市交通安全母の会連合会（山本薫会長）が県警察本部において表彰を受けました。

表彰式では、小野寺健一本部長が今副市長に感謝状を、山本会長に表彰状を手渡し、「これからまた気を引き締めて頑張ってください」と激励しました。

今副市長は「交通死亡事故ゼロを1日でも長く伸ばせるように、各関係団体と協力しながら頑張っていきたい」と話し、山本会長は「最近では自転車利用者のヘルメットの着用も浸透してきたので、これからも交通安全について呼びかけていながら、まちぐるみで活動に取り組んでいきたい」と抱負を語りました。

安全で安心な地域社会を目指して

第74回「社会を明るくする運動」が7月2日、松の館で開催されました。市民集会としては5年ぶりの開催で、犯罪や非行のない明るい地域社会を実現しようと、市民ら約300人が集いました。

集会では、車力小6年の金澤煌君と5年の工藤心都葉さんが「つがる市が心も体も元気な子どもたちでいっぱいになるように頑張ります」と力強く宣誓。社会を明るくする運動作文の発表では、木造中1年の工藤紗里菜さんが、自身の体験から学び考えたことを来場者に伝えました。

最後のアトラクションでは、県警察音楽隊の迫力ある演奏とカラーガード隊の華麗な演技が会場を盛り上げました。



7/2
松の館

作文を発表する工藤さん

今年もメロンの季節到来

7/5
車力小学校



甘みたっぷりのメロンに笑顔があふれる

この日、ごしょつがる農協木造総合支店でメロンの出荷式が行われました。今年のメロンの出来栄えについて同農協の山本康樹組合長は「今年は小玉傾向だが、糖度は高めで大変おいしいメロンができた」、倉光市長は「市場の評価は高いとの声を聞き、ようやくつがるブランドとして確立できたと感じている。今度は安定的により多く供給できるように取り組んでいきたい」と話しました。

今年は16万箱、5億円の販売目標が掲げられ、名古屋・大阪方面に向けてメロンを満載したトラックが出発しました。

この日、7月6日の「つがる市メロンの日」にちなみ市内の認定こども園や小中学校の給食につがるブランド認定のタカミメロンが、教職員を含め2,847人に振る舞われました。

車力小学校（佐々木綾子校長）4年の秋田燈生くんは「今年初めてのメロンで、久しぶりに食べたけど甘みがあってやっぱりおいしい」と話し、児童たちは皮ギリギリまで堪能して食べていました。



出荷されるメロンにブランド認定シールを貼る
(左から) 倉光市長、木村議長、山本組合長

7/16
JAごしょつがる
木造総合支店

青森スバルがライフセーバーカーを貸与

青森スバル自動車株式会社（伊藤信介代表取締役社長）は、つがるライフセービングクラブ（江良聡代表）が実施する「水辺の事故ゼロ」を目指す活動をサポートするため、「SUBARUライフセーバーカー」1台を貸与しました。

この日、マグアビーチで車両引き渡し式が行われ、伊藤代表取締役社長は「水辺の事故防止に向けた安全教育、監視・救助などに役立てていただければ」とし、江良代表は「地域住民の安全と快適な水辺の利用に向けて貢献していきたい」と話しました。

貸与されたライフセーバーカーは、海水浴場の巡回や機材の運搬、緊急救助活動、ライフセーバーの監視拠点などさまざまな用途で利用される予定です。



伊藤代表取締役社長（左）と江良代表

7/7
マグアビーチ

かかし作りで日米交流

7/8
車力小学校



かかし作りを楽しむ米軍関係者と児童たち

東北防衛局主催で、米陸軍車力通信所と車力地区の小学生との交流を目的とした「かかし作り交流プロジェクトinつがる2024」が開催されました。

この日、車力小学校（佐々木綾子校長）5年生18人と米軍関係者7人が5チームに分かれ、稲垣薫の会（野崎克行会長）会員のサポートのもと、藁を棒に巻き付け頭や胴体を作り、かかしに浴衣を着せるなど工夫をしながら各チーム個性豊かに仕上げました。

奈須真里恵さんは「米軍の人たちとも協力して、話し合いながら作ることができて楽しかった」、エリック・サナブリア3等軍曹は「子どもたちと創意工夫に富んだかかし作りができてとても楽しむことができました」と話しました。